●◆しゃばのしがらみを、仏の願いの中でいただこう◆●

仏の願い

平成２４年 西雲寺だより　春号（26 号）

仏光寺派福井教区

門徒研修会のご案内

6月23日(土)10時～4時

会場　西雲寺

講師　佐野明弘(さのあきひろ)師

（加賀　光闡坊(こうせんぼう)）

費用　千円

（昼食が出ます）

どなたでも参加いただけます。

ご希望の方はそれぞれの世話方さんへお申し込み下さい。

市街地にお住まいの方は西雲寺までお電話下さい。

一人でも多くのご参加をお待ちしています。

親鸞聖人のご生涯

晩年の親鸞

異義　二

歎異抄第二条

おのおの十余か国のさかいをこえて、身命（しんみょう）をかえりみずして、たずねきたらしめたもう御こころざし、ひとえに往生極楽のみちをといきかんがためなり。しかるに念仏よりほかに往生のみちをも存知（ぞんち）し、また法文（ほうもん）等をもしりたるらんと、こころにくくおわしましてはんべらんは、おおきなるあやまりなり。もししからば、南都北嶺（なんとほくれい）にも、ゆゆしき学生（がくしょう）たちおおく座せられてそうろうなれば、かのひとにもあいたてまつりて、往生の要よくよくきかるべきなり。親鸞におきては、ただ念仏して、弥陀にたすけられまいらすべしと、よきひとのおおせをかぶりて、信ずるほかに別の子細なきなり。

十余か国のさかいをこえて

『歎異抄』第二条のこの文章は、親鸞聖人が八十三歳の頃、関東のお弟子たち五、六人が信心に揺れを生じて、命がけで京都の聖人のもとへ訪ねてきた時の様子が語られています。そのなかにはこの『歎異抄』の著者である四十歳代の若い唯円房もおられたのです。

親鸞聖人が関東を去って二十年、残されたお弟子やお同行たちは、性信（しょうしん）、真仏、順信など上足のお弟子を中心にお念仏のみ教えに生きておられたのです。ところがよき師であり、信仰の支えであった聖人がおられなくなると、お弟子や同行の中に自分の思いや計らいによって教えとは異なるさまざまな「異義」を言い出す者がでてきたのです。そのため不審を問い正さんがため、五、六人のお弟子たちが命がけで関東から京都の聖人のもとに訪ねてきたのです。「十余か国のさかいをこえて」とは、現在の茨城県である常陸（ひたち）を起点として下総（しもうさ）、武蔵（むさし）、相模（さがみ）、伊豆（いず）、駿河（するが）、遠江（とおとうみ）、三河（みかわ）、尾張（おわり）、伊勢（いせ）、近江（おうみ）、山城（やましろ）という十一の国です。「身命をかえりみずして」とは当時は東海道がまだ整備されておらず、宿場も整っていませんでした。箱根の山には山賊や追いはぎがいたことでしょう。野犬や狼に襲われることもあったのです。そのなかをまさに命がけで京都に上ってきたのです。

往生極楽のみちをといきかんがため

「身命をかえりみずして、たずねきたらしめたもう御こころざし、ひとえに往生極楽のみちをといきかんがためなり」いのちがけで訪ねてきたお弟子たちに対する聖人のお言葉です。あなたたち、遠路命がけで訪ねてきたのは、往生極楽の道を問い聞かんがためだろうといわれるのです。何かとぎすまされた真剣勝負の場面のような気がします。勿論「ようおいで下さった。ご苦労であった」というようなねぎらいのことばはあったと思いますが世間的なことばは一切はぶかれています。「往生極楽の道」とは「後生（ごしょう）の一大事」ということ、「このいのちが迷いや苦しみを超えてたすかっていく道」ということでしょう。訪ねて来た人々のなかに「往生浄土の道にたつ」以外に何かたすかる教えがほかにあるのではないかと、こころに揺れを感じている人がいたのです。それを見通しての聖人のおことばのように思われます。

歎異抄第二条の背景　善鸞事件

親鸞聖人が関東を去って十数年もすると教団の中にいろんな異義をいい出す者が出てきたのです。その代表的なものは「造悪無碍（ぞうあくむげ）」といって、如来さまは悪人を救って下さるのだから悪を犯してもかまわないのだという異義、そしてその反対の「専修賢善（せんじゅけんぜん）」の異義、これは悪人が救われるといってもやはり悪を慎しみ、善を行わなければならない、そのようなこころのない者は救われないのだという道徳化していく異義、一念の信心で救われるのであるから、その後の念仏は称えなくてもよいという異義、その反対の信心のあとも臨終まで一声でも多く念仏を唱えなくてはいけないという異義、このような異義によって教団の中がお弟子やお同行の対立によって和が乱れ、また社会に対しても害を及ぼすこととなったのです。お弟子からのお手紙によって関東教団の内状を知

らされた聖人は心を傷められ、お手紙やお聖教（しょうぎょう）を写して関東に送られ異議を糺そうとされますが収めることはできなかったのです。

それで聖人はご自身の名代としてご長男の善鸞を関東に遣わされたのです。しかし残念ながら善鸞にはその力量が無かったというか異義を収めることができなかったのです。やがて善鸞は異義に加担し、性信や真仏という上足のお弟子が間違った教えを説いていると、京都の父親である聖人に手紙を出し、また性信や真仏を鎌倉幕府に訴える手段にまで出たのです。そして更に父親の威をかりて「父、親鸞が今まで説いてきたことは本当のことではない。父が夜中に私にそっと教えてくれたことが本当の教えである。だから性信や真仏の言うことを聞かないで私のいうことを聞きなさい」といい、十八願の念仏往生をしぼめる花にたとえたといわれています。

善鸞の墓所
（神奈川県厚木市弘徳寺）

このような善鸞の行動によって教団は一層混乱していきます。しかしやがてお弟子からのお手紙によって事の真相を知られた聖人は、善鸞を「悲しきことなり」と義絶されたのです。

日蓮上人の四箇格言（しかかくげん）

日蓮上人は、親鸞聖人が亡くなられるおよそ十年前に、奈良での勉学を終えられて関東へ帰り、故郷の安房国（あわのくに）、千葉の清澄山（きよすみやま）で東の方にのぼる朝日を拝しながら、南無妙法蓮華経の第一声を唱えたことをもって立教開宗としたと言われています。そして北条時頼に対して『立正安国論（りっしょうあんこくろん）』を提出したのです。それ以来日蓮宗の布教活動は盛んに行われていたのです。日蓮上人は四箇格言をとなえて今までの仏教を批判されました。四箇格言とは、念仏無間（ねんぶつむけん）、禅天魔（ぜんてんま）、真言亡国（しんごんぼうこく）、律国賊（りつこくぞく）という四つの格言で、念仏は無間地獄、禅は天魔の所為、真言は国をほろぼす、律僧は国賊だという意味です。千葉県は親鸞聖人が活躍された茨城県のすぐ隣ですから、念仏を称える者は無間地獄に落ちるぞという日蓮上人の警告は、少なからず関東の門弟たちに動揺をもたらしたものと思われます。

念仏よりほかに往生のみちをも存知し

聖人は更に続けて「念仏よりほかに往生のみちをも存知し、また法文等をもしりたるらんと、こころにくくおぼしめしておわしましてはんべらんは、おおきなるあやまりなり」といわれます。私は往生浄土の道は念仏以外にないということを説いてきたはずです。秘密にしてきたことなど一切ありません、皆さんにすべて公開してきましたといっておられるのです。このお言葉にはお弟子のなかに「お念仏以外に往生の道を知っておられるのでないですか。何か秘密にしていることがあるのではないですか。教えて下さい」という問いがあってのお言葉と思われます。更に続けて「内緒ごとにしていることがあるのではないか」とか「お念仏以外に往生の道があるのではないか」といわれるならば、奈良や比叡山にたくさんの立派な学者がおられるから、どうぞお会いになって「往生の要は何ですか」とお聞きになって下さいといってつき離しておられるのです。

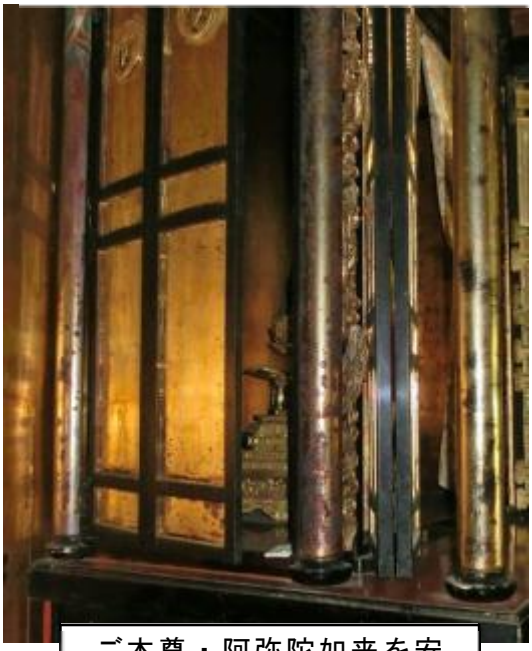
親鸞におきてはただ念仏して

そして親鸞聖人は「親鸞におきては、ただ念仏して、弥陀にたすけられまいらすべしと、よきひとのおおせをかぶりて、信ずるほかに別の子細なきなり」と自分のすべてを訪ねてきた門弟たちの前にさらけ出しておられます。

「親鸞においては」というのは、本に書いてあるからだとか、皆がいっているからだとかいう、他人ごとの話ではないのです。この私が救われていく道は、よき師法然上人から賜わった「ただ念仏して弥陀にたすけられまいらすべし」という仰せのとおりお念仏申して本願にたすけられていく以外に何もありません。「お念仏すれば助かるということになっているのです」という話ではなく、親鸞においては、現在ただ今、このお念仏によって助けられているのです、と、お弟子たちを前に「ただ念仏」に賜わった深い自覚の世界を語られていくのです。

（住職）

西雲寺 親鸞聖人750回御遠忌
お内陣 修復事業



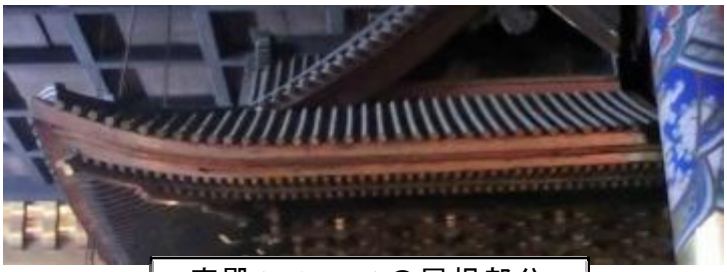
ご本尊・阿弥陀如来を安置する宮殿（くうでん）

今後の予定

平成25年1～6月　内陣修復工事

（この期間はお御堂が使えません。ご本尊はお座敷に移しまして、そこでおつとめを行います。）

平成26年4月27日　西雲寺の御遠忌厳修



宮殿（くうでん）の屋根部分

親鸞聖人七五〇回御遠忌勤修と内陣修復工事に伴う寄付金のお願い

総代　吉川　芳弘

新緑の候　皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。寒かった冬も終わり、西雲寺のしだれ桜もきれいに咲きました。日頃は何かと西雲寺のためにお世話になり有難うございます。東日本大震災から一年が過ぎましたが、余り復興は進んでいないし、原発の恐ろしさを改めて痛感致しております。

さて、春のお彼岸に世話方集会がありました。去年は本山で親鸞聖人七五〇回御遠忌が盛大に勤まりました。西雲寺からも多数の皆様がお参り頂き、有難うございました。　西雲寺でも4年後に御遠忌法要をしたいと住職さんが発言しましたら、もっと早く法要をして欲しいと言う意見があり、また毎年1万円の特別積立金を今後6年間も納めるのは国民年金だけで生活している方々には大変である、それで寄付を募って期間を短縮できないかと提案がありました。

今、国会では消費増税の話が出ています。26年4月に8％、27年10月に10％に上がる予定です。これらをいろいろ世話方さんと検討した結果、増税前に借金をしてでもやろうと決め、25年1月～6月に内陣修復工事をし、26年4月27日に御遠忌勤修と決定しました。

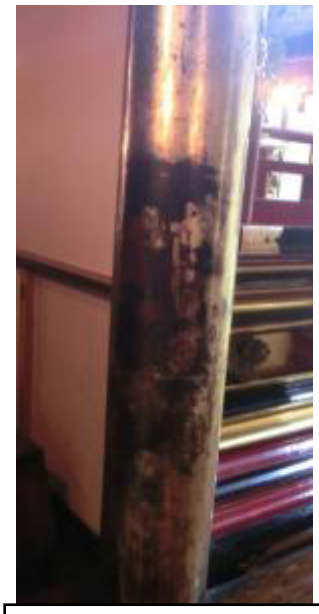
内陣修復工事は、3社に見積したところ、安い業者で2千万円です。別に御遠忌費用として300万円が必要です。積立金は23年度で一千万円です。職人さんの話では、内陣の造り、宮殿、欄間など、他のお寺さんでは見られない立派なものであるということです。先祖が残した立派な内陣を私たちは誇りに思い、子々孫々に伝えたいと思います。

来年3月の世話方集会に、改めてお同行の皆様方にご寄付をお願いし、お受け致したいと思います。何卒ご賛同いただき、ご協力下さいますようよろしくお願い致します。

欄間（らんま）

①は向かって一番左、
②③④は正面、
⑤は向かって一番右の欄間です。

①と⑤は、中国の故事にちなむものです。
正面の②③④は、お浄土を表現しています。



傷んでいる丸柱

会計を担当して気づいたこと

会計　高橋　諭

一年前から会計として皆様方のお世話になっております。昭和29年生まれの57歳で、成人した子どもが2人います。

会計を担当してまず感じたのが、門徒負担金を納めていただいているお同行が毎年減少しているという不安です（3年間で10戸減です）。次世代との引き継ぎがうまくいってないからでしょうか。

お同行が減れば当然、維持や修理の金銭的負担が増してきます。いろいろな法要にも、また雪囲い、桜の手入れといった作業にも支障が出てきます。コーラスも、台所の手伝いも…。

少子高齢化のこの時代、考えないといけない問題がたくさんありますが、悲観ばかりでもありません。今のまま何もしなければ手遅れになるかもしれませんが、先輩方のご指導のもと、いろいろな道が開けてくると思うからです。

このたび、平成26年4月に「宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌」を勤修させて頂くことに決まりました。内陣修復工事などの経費が今後の課題です。

私は、これを機会に、子ども達と一緒に宗教のことを考えようと思っています。そして、それが私達家族の発展につながると信じています。

同時に、お同行の皆様方と西雲寺のますますの発展を目指したいと思います。つたない私ではありますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

今年もきれいにさいてくれました

しだれ桜

八重桜

尺八奏者も司会者もお同行です♪

武周には雅楽の伝統があります

夜桜

さくら吹雪

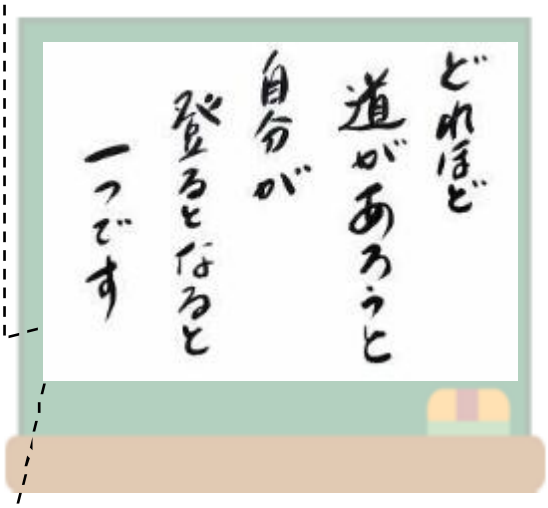
今は
しゃくなげの
季節です

よく聞くことでありますが「仏法にはいろんな教えがあるが、めざすところは一つであるからどの教えでもいいのではないですか」と。

確かにそうです。仏法の目指すところは、人生の苦悩や迷いを超えて悟りを開くこと、仏になることですから、目指すところは一つです。しかしその頂上を目指すとなるとたくさんの道があるのです。例えば富士山へ登るにしてもいろんな道はありますが、身体の頑丈な人は歩いて頂上へ登れても、身体の弱い人や老人は登ることはたとえ登れても途中までででしょう。この人が言われるのは、ただ富士山を眺めているだけで登る気のない人生の傍観者です。人生において、ましてこの私が救われる道においては必ず決断が迫られるのです。（住職）

親鸞におきては、ただ念仏して弥陀にたすけられまいらすべしと、よき人のおおせをかぶりて、信ずるほかに別の子細なきなり。『歎異抄』

山門掲示板



『正信偈』に先輩の感動あり！

已能雖破無明闇
貪愛瞋憎之雲霧　常覆真実信心天

読み方

已に能く無明の闇を破すといえども
貪愛瞋憎の雲霧、常に真実信心の天に覆えり

意味

すっかり無明の闇が破られたとしても（自分の思いこみを破られて、見える世界が変わったとしても）、貪りと愛着と瞋りと憎しみの雲霧が、常に真実信心（思いこみを破られた喜び）を覆うのです。

疑いもご縁　納得もご縁

☆毎日、愛に苦しんだり腹が立って苦しんだりし続けるからこそ、先人は『正信偈』に導かれなければならないんだと、おつとめを毎日、してたんじゃないでしょうか。

★さとりを開いた後ってスッキリするものじゃないの？明るくぱーっと晴れ渡るのかと思ったけど…

行事予定（平成24年度）

6月中旬　本山差し向け布教
14、15日　西雲寺
16日　安田地区（お宿・末定育雄さん宅）
17日　本堂地区（お宿・八木哲雄さん宅）
布教使　大阪　長田　譲　師

6月23日(土)　門徒研修会
西雲寺が会場です（表紙をご覧下さい）

7月10　11日　永代経
布教使　奥田　順誓　師
11日はバスが3台出ます。
おときがふるまわれます。

10月17　18　19日　報恩講
布教使　南　真琴　師
18日はバスが3台出ます。
おときがふるまわれます。

11月28　29　30日　御正忌報恩講
29日はおときがふるまわれます。
布教使　野世　信水　師

12月31日　除夜の鐘（どなたでもどうぞ）

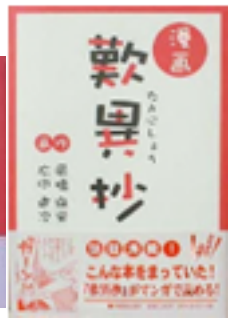
1月1～3日　お年頭
ご本尊ご遷座法要（内陣修復工事開始）

3月　春分の日　世話方集会

どうぞお参り下さい

図書紹介

『漫画　歎異抄』
岡橋徹栄作
弘中建次画
本願寺出版局
2004年
999円(税込)



『歎異抄』って「たんにしょう」って読むのか～　そんな初心の方、若い人向けにマンガはいかがでしょうか。

『歎異抄』が誰によって書かれたのか知らなくてもかまわないのです。いつの時代の本であろうといいのです。この本には「仏さまに実際に救われた人」のことが書かれているのですから。何百年たとうとも、ぴりっとも揺るがない言葉が書かれているのですから。

娘に手渡してみたところ、ボケとツッコミがちょっと古いけど、分かりやすいわ～と申しておりました。

よかったら、ぜひ若い人にすすめてみて下さい。福井の本屋さんで手に入れようとすると、注文になります。買うのはインターネットが使える若い人にまかせてしまうのもいいかも知れませんね。

発　行
真宗仏光寺派　専念山　西雲寺（さいうんじ）
住職　護城一寿
筆頭総代　吉川芳弘
編集責任者　護城一哉
〒910-3523　福井市武周町５－２
電話　0776-97-2138
メール　kmgojo@mx3.fctv.ne.jp
ホームページ　http://arukou.net/

次世代の方、分家された方に！
お寺から郵送いたします。どうぞご遠慮なくお申し出下さい。

みなさんの声　大募集！
原稿や作品はもちろん、ご意見、ご感想など、どしどしお寄せ下さい。郵送でもメールでも構いません。お待ちしております。